

第5章 碧南市における地域公共交通の課題

1) 現況や各種調査からみた碧南市の地域公共交通の状況と集約課題

分類	現況や各種調査における傾向や動向	集約課題との対応		
		①	②	③
社会情勢や上位関連計画	● 新型コロナウイルス感染症の影響により、公共交通利用者数は感染症拡大前と比較して20%程度の減少の状態推移している		○	
	● 高齢者を中心とした運転免許証の自主返納が進んでおり、返納後の移動手段の確保が必要とされている	○	○	○
	● 第6次碧南市総合計画における公共交通に関する施策は、「都市の発展に向けた活力を生み出すまち」に位置付けている		○	○
	● 碧南市都市計画マスタープランでは、鉄道駅周辺における駐車場・駐輪場の確保により、パークアンドライドの利用を推進するとともに、ふれんどバス・くるくるバスについて、他の交通との適切な役割分担を図ることを記載している	○		○
	● 第2期碧南市まち・ひと・しごと創成総合戦略【総合戦略】では、駅周辺の整備によりまちの賑わいを創出するとともに、市内公共交通の充実により、観光などでの来客の利便性も向上し、基本目標2「新しい人の流れづくり」の達成につながるとしている	○		○
碧南市の概況	● 碧南市の人口は2005年ごろから横ばいで推移しており、碧南市人口ビジョンにおいても、この先同様の傾向が続くとされている	○		
	● 高齢化率は2020年度では23.8%となっており、今後も増加傾向が続くことが推計されている	○		
	● 公共交通全体での人口カバー率は99.8%となっている（駅から半径800m、バス停から半径500mの利用圏域）	○		○
	● 通勤・通学流動は約6割が市内の移動となっており、通勤流動では近隣市の西尾市や安城市、通学流動では名古屋市との結びつきが強い	○		○
公共交通や移動サービスの状況	● 名鉄三河線の利用者数は2019年度の約478万人まで微増傾向が続いていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により2020年度においては年間で約100万人の減少となった		○	○
	● ふれんどバスの利用者数は2021年度で約248千人だが、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた2020年度以降、回復基調にある		○	○
	● くるくるバスは4コースで運行しており、合計利用者数は2021年度で約90千人だが、新型コロナウイルス感染症を大きく受けた2020年度以降、回復基調にある	○	○	
	● 市内に営業所を開設しているタクシー事業者は2社あり、合計24輦で運行している	○		
	● タクシーの利用者は、新型コロナウイルス感染症流行前の2019年度では約151千人であったが、2021年度では約96千人となっている	○	○	
	● 市内の各駅にくるくるバスのバス停が設置されているほか、碧南駅ではふれんどバスのバス停、碧南駅・碧南中央駅・北新川駅ではタクシー待機所があり、鉄道駅が交通結節点としての役割を果たしている	○		○
	● 近隣市のコミュニティバスは、サンビレッジ衣浦に高浜市「いきいき号」、碧南市民病院に安城市「あんくるバス」、鷲塚住宅に西尾市「六万石くるりんバス」が碧南市内に乗り入れており、くるくるバスと接続している		○	○
	● 碧南市内の福祉有償運送は2つのNPO法人によって運行されており、2021年度では延べ104回の利用がある	○	○	
	● 碧南市が実施している外出支援事業の年間利用実績は、①福祉タクシー料金助成事業が509名・タクシー券4,827枚、②高齢者外出支援サービス事業が延べ37名、③車いす専用車両貸出事業が延べ339回・713人（いずれも2020年度）となっている	○	○	
● 碧南市内では主に碧南駅から企業送迎バスが発着しており、衣浦港周辺の工業地帯に向けて運行されている		○	○	
市民アンケート	● 碧南市内では7割以上の方が個人で利用できる自家用車を所有しており、20歳代以下や70歳以上ではその割合が低い	○		
	● 最も頻度の高い外出目的で利用する移動手段は、7割以上の方が自分で運転する自家用車を利用している	○		
	● 60歳以上の市民では、80歳ごろに運転免許を返納する意向がある人が37.3%で最も多く、返納後に利用したい移動手段は「家族・知人などによる送迎」「くるくるバス」「徒歩」の順となっている	○		
	● 各公共交通の利用率（年に数日程度以上利用）は「名鉄電車」は49.7%、「タクシー」は17.6%、「くるくるバス」は9.9%、「ふれんどバス」は1.7%の順となっている	○	○	○
	● 公共交通のサービス内容などの認知度として「あなたの自宅近くのバス停の位置」は58.7%である一方、「あなたの自宅近くを走るバスで行くことができる施設」は15.9%となったほか、くるくるバスから乗り継げる先のコミュニティバスでは「あんくるバス（安城市）」は22.8%、「六万石くるりんばす（西尾市）」は9.6%、「いきいき号（高浜市）」は6.2%の順となっている		○	
	● 公共交通の認知度として「市内をくるくるバスが走っていること」は91.0%で、「市内に名鉄電車の駅があること」の93.6%とともに9割を超えている		○	

碧南市における地域公共交通の課題 ＜集約課題＞

① 増加する高齢者をはじめ、幅広い世代が利用しやすく分かりやすい市内公共交通サービスの提供

② 公共交通に関わる全ての関係者が連携して、公共交通に対する意識を醸成しつつ、利用して元気になる取組みの実践

③ 碧海5市や西尾市・名古屋市等の広域的な移動ニーズに対応した公共交通の維持・活性化

分類	現況や各種調査における傾向や動向	集約課題との対応		
		①	②	③
市民アンケート	● 各公共交通を利用している人の満足度（満足+やや満足）は「名鉄電車」は56.1%、「タクシー」は32.1%となっている	○	○	○
	● 各公共交通を利用しない理由としては、「現時点で利用の必要がない」がどの公共交通も回答割合が最も多い		○	
	● タクシーを利用しない・不満な理由としては、「運賃が高い」が13.2%、「運賃がいくらかかるか分からない」が11.7%となっている	○		
	● 名鉄電車、ふれんどバスに期待する役割は「通勤・通学するための交通手段」が最も高く、次いで「自家用車などを利用できない方や、利用できなくなった場合の交通手段」、「市外の施設へ行くための交通手段」の順となっている			○
	● くるくるバスに期待する役割は「自家用車などを利用できない方や、利用できなくなった場合の交通手段」が最も高く、次いで「通院・買い物するための交通手段」、「市内の施設へ行くための交通手段」の順となっている	○		
	● タクシーに期待する役割は「自家用車などを利用できない方や、利用できなくなった場合の交通手段」が最も高く、次いで「いつでも行きたいところへ行くことができる交通手段」、「通院・買い物するための交通手段」の順となっている	○		○
	● くるくるバスの今後の運行について、「運賃は無料のまま、現在のサービス水準を維持する」と回答した人の割合が最も多く32.7%、次いで「運賃は無料のまま、サービス水準を上げる」が26.1%、「運賃を有料化し、サービス水準を上げる」が18.1%となっている	○		
	● 免許返納後に利用したい移動手段について、健康状態がよいと答えた人が「くるくるバス」を多く選択しており、健康状態がよくない人ほど「家族・知人などによる送迎」の割合が高くなっている	○		
	● 碧南市の公共交通を充実させるための取組みについて、「くるくるバスの充実（運行本数の増加や運行時間帯の延長など）が59.4%で最も多く、「高齢者・福祉タクシー料金助成制度の拡充」が49.4%の順となっている	○	○	
	● 公共交通の維持のために取り組める内容は、「公共交通を積極的に利用する」の割合が最も高い		○	
利用者アンケート	● ふれんどバスの総合的な満足度（満足+やや満足）は72.2%で、今後重要なサービス項目は「運行本数」、「運行時間帯」、「運行ダイヤ」の順で重要度（重要+やや重要）が高い		○	○
	● くるくるバスの総合的な満足度（満足+やや満足）は68.2%で、今後重要なサービス項目は「運行本数」、「運行ダイヤ」、「運転手の対応」の順で重要度（重要+やや重要）が高い	○	○	
	● くるくるバスの今後の運行について、「運賃は無料のまま、サービス水準を上げる」と回答した人の割合が最も多く39.2%、次いで「運賃は無料のまま、現在のサービス水準を維持する」が35.1%、「運賃を有料化し、サービス水準を上げる」が18.9%となっている	○		
乗降調査	● ふれんどバスのODは平休日ともに乗車・降車どちらも鉄道駅（碧南駅・吉良吉田駅）が多く、平日では沿線の高校の最寄りバス停（碧南高校・一色高校西・吉良高校）、休日では一色町公民館や松木島の利用も多い			○
	● くるくるバスのODは市役所周辺やサンビレッジ衣浦、東部プラザ・南部プラザ等の行政施設をはじめ、市民病院や鉄道駅を起終点とした移動が多い	○		
	● ふれんどバスの利用者は、30歳代以下が平休日ともに6割を超えており、「通学」が平日は70.4%、休日は20.0%で最も多い利用目的となっている。休日では「買い物・飲食」や「観光・娯楽」の利用もそれぞれ14.3%みられる			○
	● くるくるバスの利用者は、60歳以上が平休日ともに約5割となっており、「買い物・飲食」が平日は21.7%、休日は30.6%で最も多い利用目的となっている。30歳代以下の利用者についても平日では19.9%、休日では15.5%みられる	○		
事業者ヒアリング	● 名鉄の他路線と比較して、三河線では新型コロナウイルス感染症の影響で減少した利用者の戻りが鈍い特徴がある。現在、駅を中心としたまちづくりや自治体と連携したイベント等の取組みを実施している		○	○
	● ふれんどバスの利用者は高校生が多く、利用者数はコロナ禍前の9割程度まで戻っている。沿線自治体・学校・住民との連携で運行の見直しやイベント実施等、利用促進事業を実施している		○	○
	● くるくるバスは生活密着型の路線として運行しており、市民生活に重要な公共交通だと感じている。利用者が安心して利用できる取組みを進めたい（バスロケーションシステムやバス停環境の整備等）	○	○	
	● タクシー事業者として福祉交通の利用案内等について行政と連携していきたい。また、タクシーの運賃面における利用者の抵抗感を減らすことで利用増進につながる可能性がある	○	○	
地区ミーティング	● くるくるバスが無料で運行していることに対する理解が得られた一方で、運行本数の増加を求める意見や、バスを安心して待てる環境が必要である意見が出された	○	○	

碧南市における
地域公共交通の課題
＜集約課題＞

① 増加する
高齢者をはじめ、
幅広い世代が
利用しやすく
分かりやすい
市内公共交通
サービスの提供

② 公共交通に関わる
全ての関係者が
連携して、
公共交通に対する
意識を醸成しつつ、
利用して元気になる
取組みの実践

③ 碧海5市*や西尾市・
名古屋市等の
広域的な移動ニーズ
に対応した公共交通
の維持・活性化

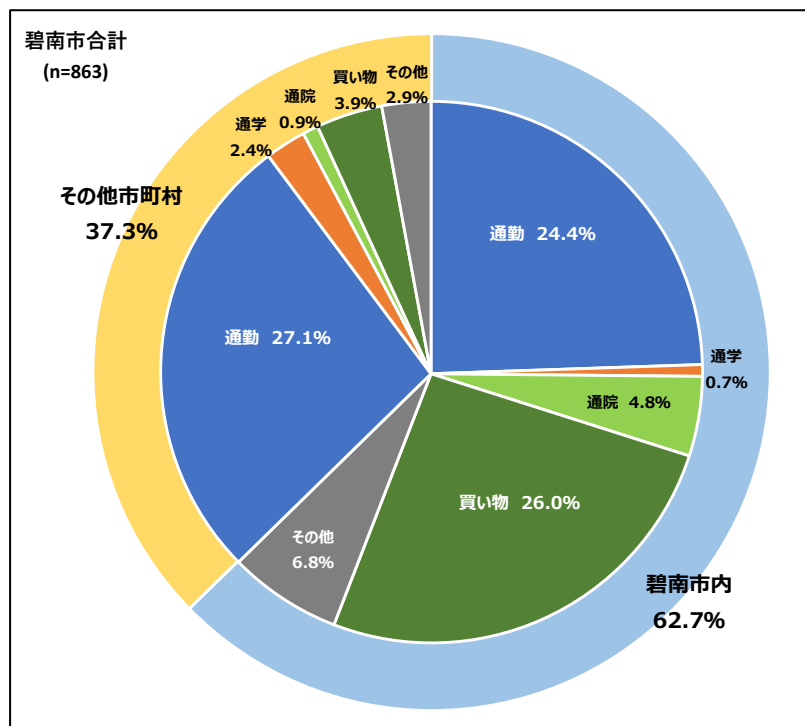
*のついた用語は75ページに解説があります

2) 個別課題から導かれる集約課題

集約課題① 増加する高齢者をはじめ、幅広い世代が 利用しやすく分かりやすい市内公共交通サービスの提供

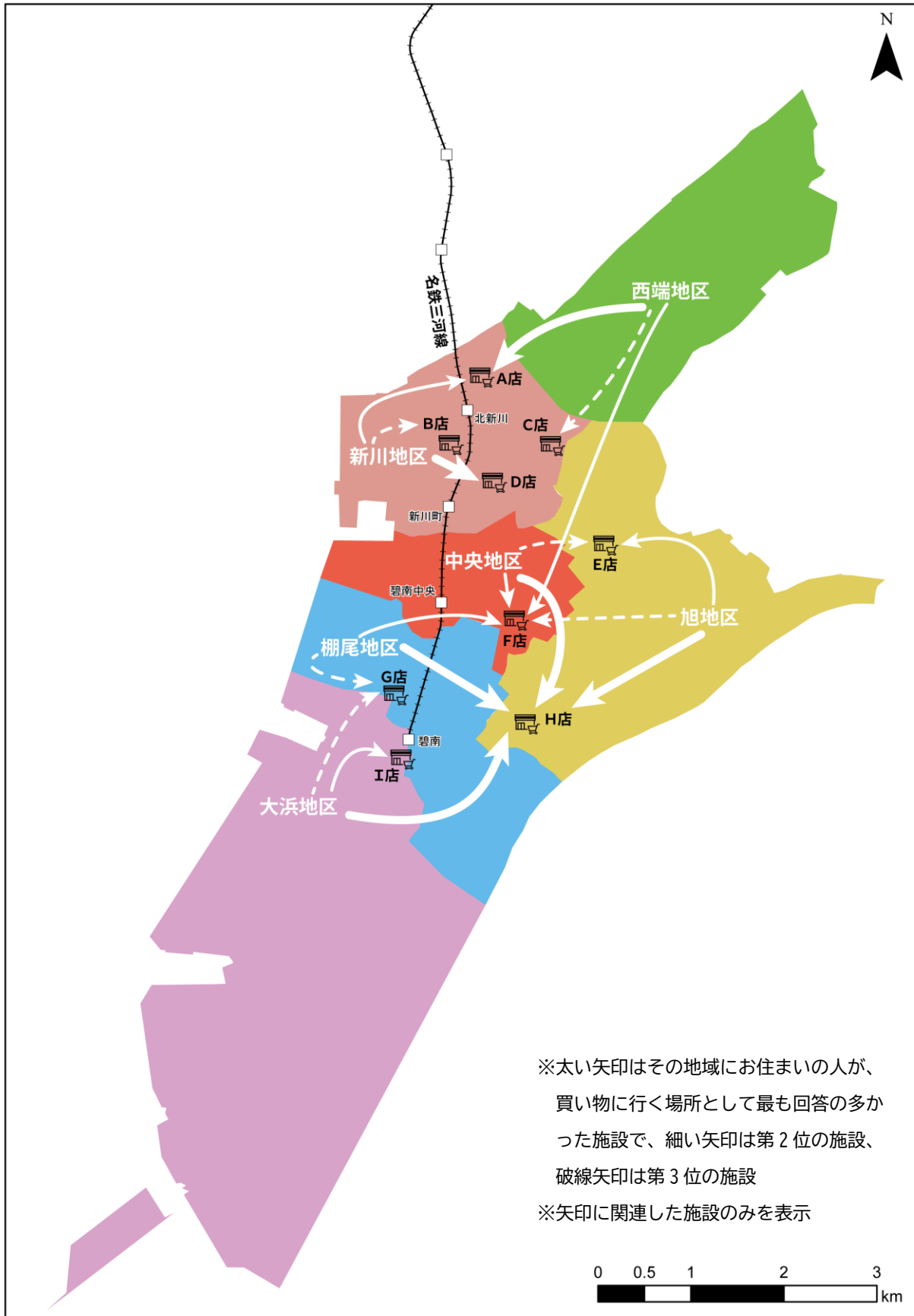
- 市民の普段の外出先では市内の割合が高いため、市内の主要施設と各地域を結ぶ公共交通ネットワークの形成が必要です。
- 本市の高齢化率は増加傾向にあり 2020 年度では 23.8%ですが、将来推計人口から今後も高齢化が進むことが予測されており、運転免許証の自主返納が考えられる高齢者の移動ニーズに対応した公共交通の運行が求められます。
- くるくるバスは、65 歳以上の高齢者を中心に買い物や通院などで利用されているほか、30 歳代以下の利用も一定程度みられ、広く市民の移動手段として定着しており、利用者の満足度も 68.2%と高いことから、今後も市民・利用者のニーズを取り入れながら継続的な運行が求められます。
- タクシー運賃に関する不安を取り除くことなど、市内それぞれの公共交通の利用促進につながる取組みが必要です。
- 市内でサービスされている各種公共交通や福祉、企業等の移動手段について、移動目的や目的地に応じた役割の明確化が重要です。

図 5-1 最も頻度の高い外出目的とその目的地



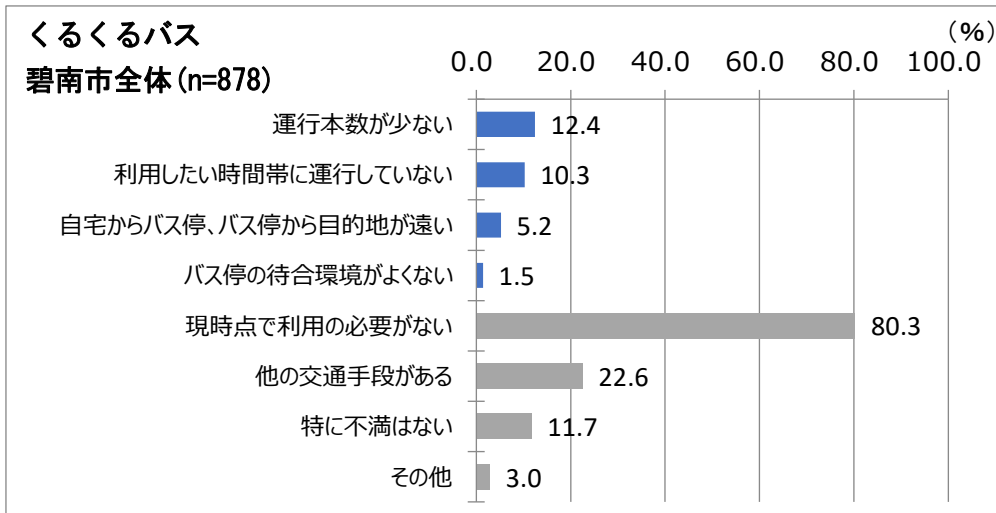
(資料：市民アンケート調査)

図 5-2 普段の「買い物」目的での市内の目的地



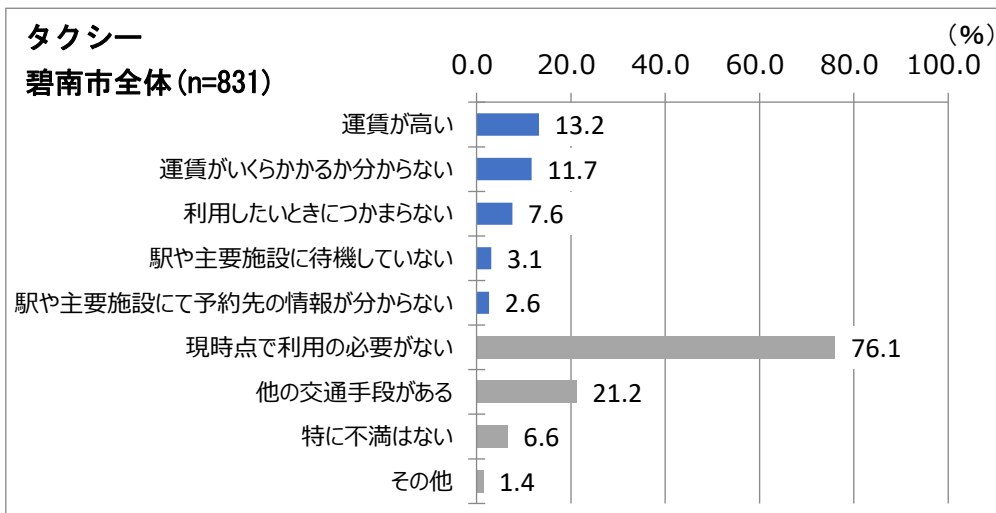
(資料：市民アンケート調査)

図 5-3 公共交通を利用しない理由・不満な理由（くるくるバス）（再掲）



(資料：市民アンケート調査)

図 5-4 公共交通を利用しない理由・不満な理由（タクシー）（再掲）

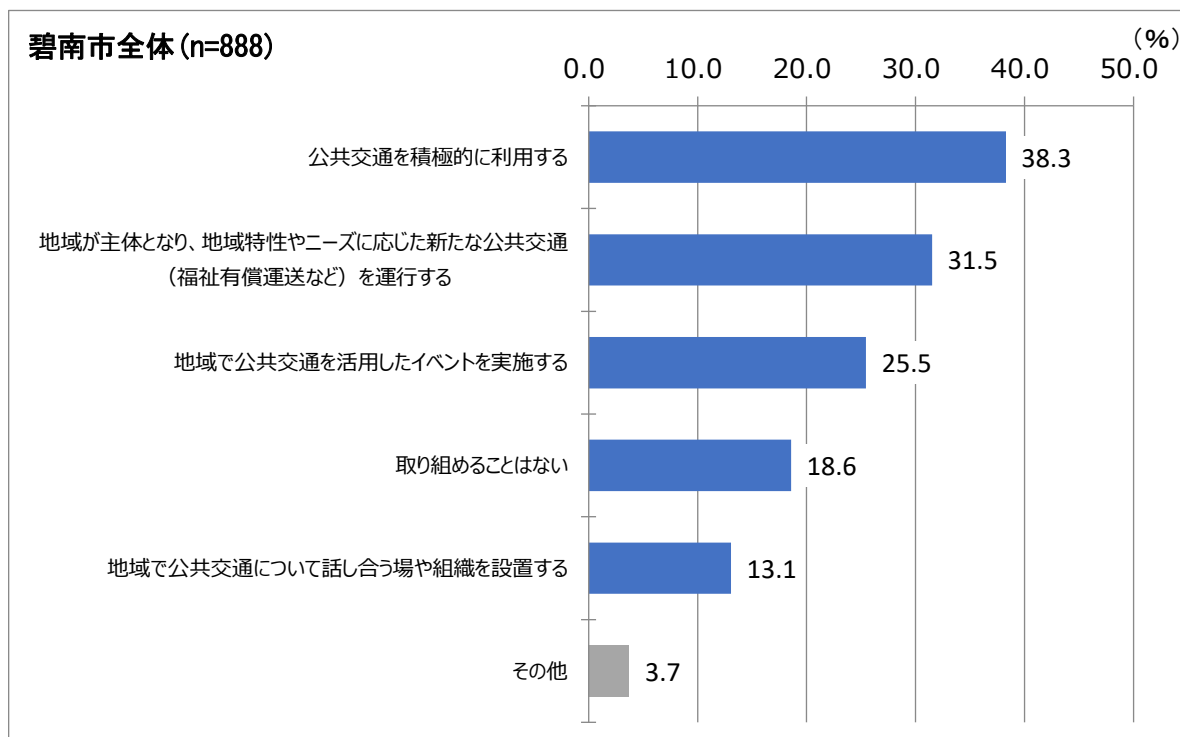


(資料：市民アンケート調査)

集約課題② 公共交通に関わる全ての関係者が連携して、公共交通に対する意識を醸成しつつ、利用して元気になる取組みの実践

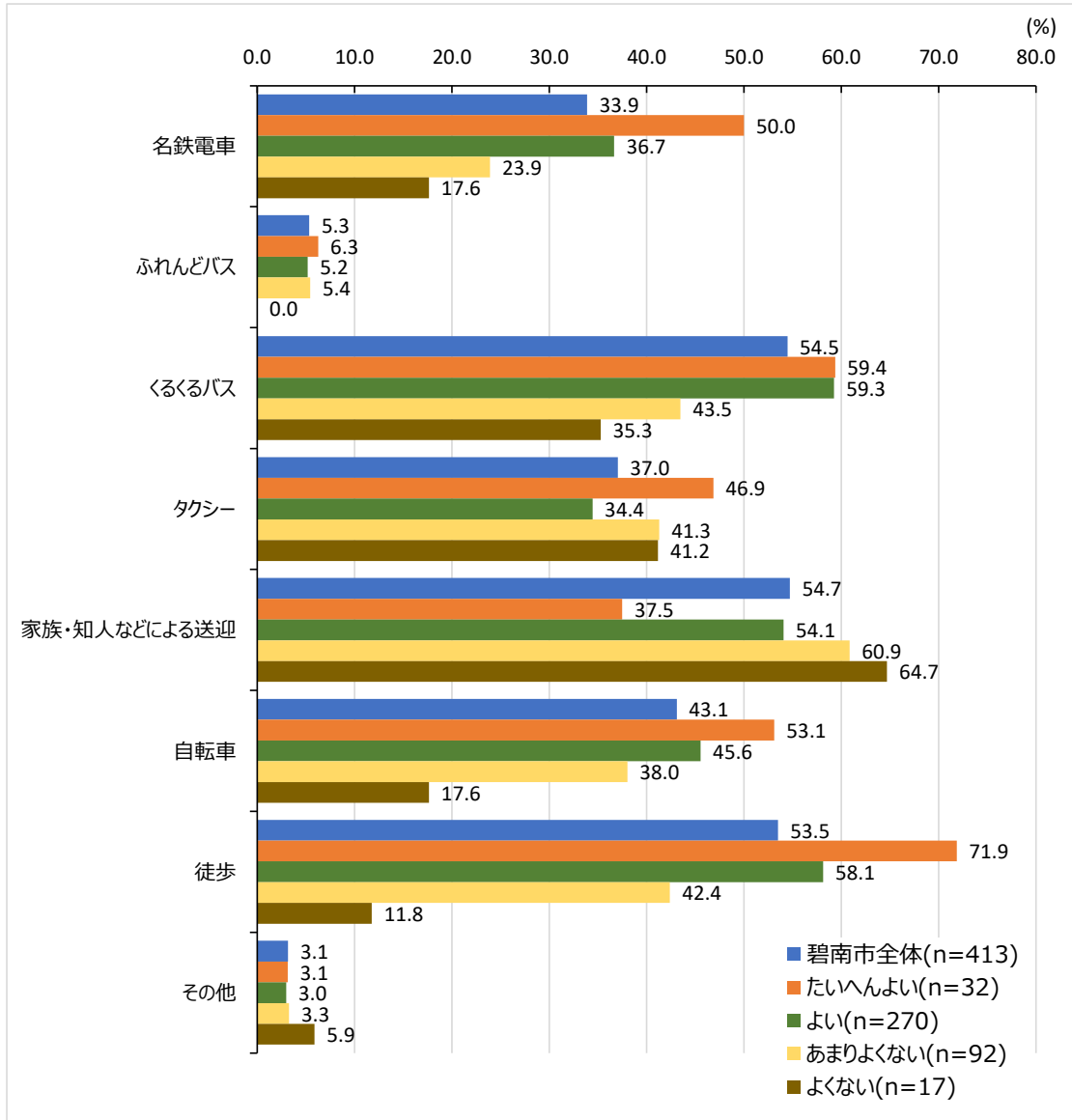
- 持続可能な公共交通を確保するためには、公共交通に関わる全ての関係者が連携したうえで、新型コロナウイルス感染症の影響により利用者が減少した状況からの回復策に取り組むことが必要です。
- 公共交通の利用意識には健康状態が関わっており、元気なうちに公共交通の利用機会を作ることが重要です。
- 各公共交通が運行していることに対する認知度は高い水準にあるものの、タクシーの待機場所やバスで行くことができる施設の認知度については半数を下回っていることから、市内の公共交通がどのような状況で、どのような運行をしているかについて行政や運行事業者は発信・共有し、市民はその情報を受け取るとともに、公共交通を利用することで、公共交通に対する意識を醸成する取組みが求められます。

図 5-5 地域の公共交通を維持するために、あなた自身や地域で取り組んでもよいと思うもの



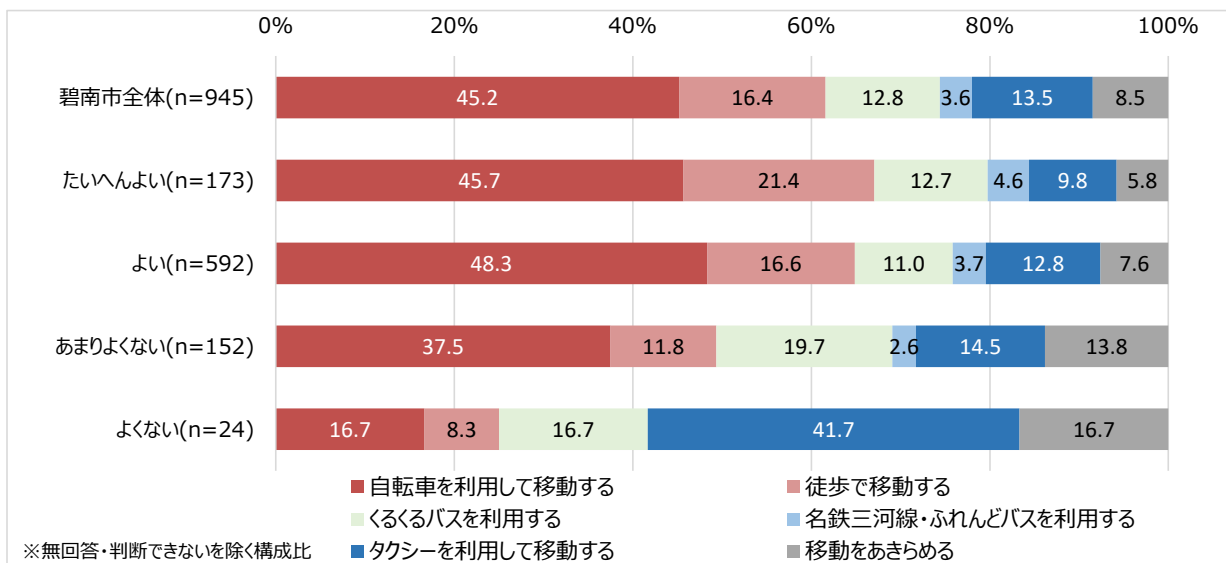
(資料：市民アンケート調査)

図 5-6 免許返納後に利用したい（利用している）移動手段（再掲）



(資料：市民アンケート調査)

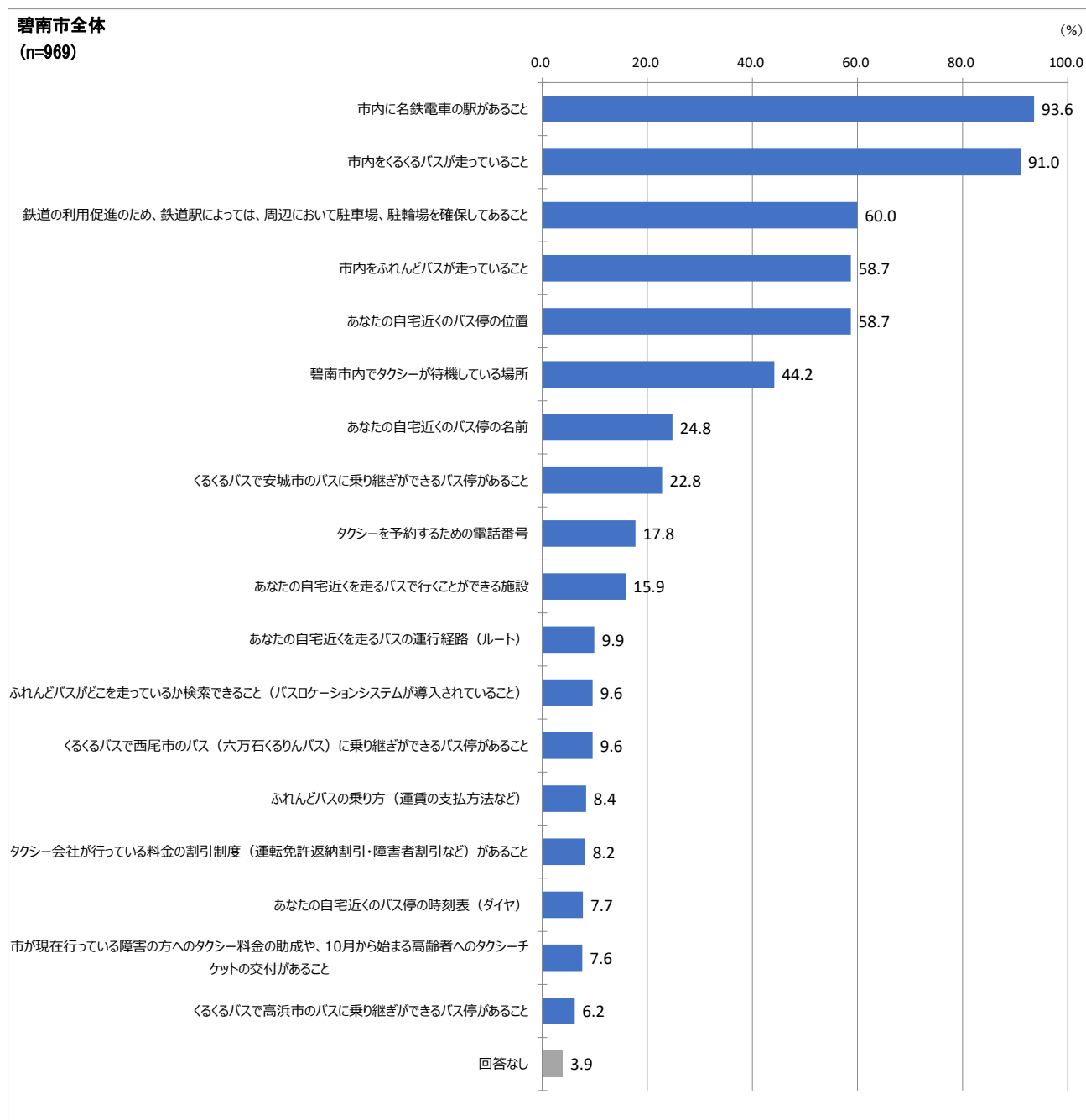
図 5-7 自家用車を利用しない場合の市内での移動手段（再掲）



※無回答・判断できないを除く構成比

(資料：市民アンケート調査)

図 5-8 公共交通に関する認知度（再掲）

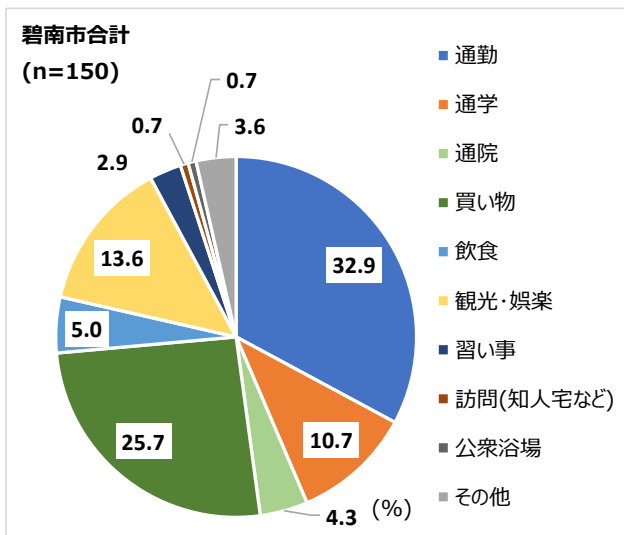


（資料：市民アンケート調査）

集約課題③ 碧海5市及び西尾市・名古屋市等の広域的な移動ニーズに対応した公共交通の維持・活性化

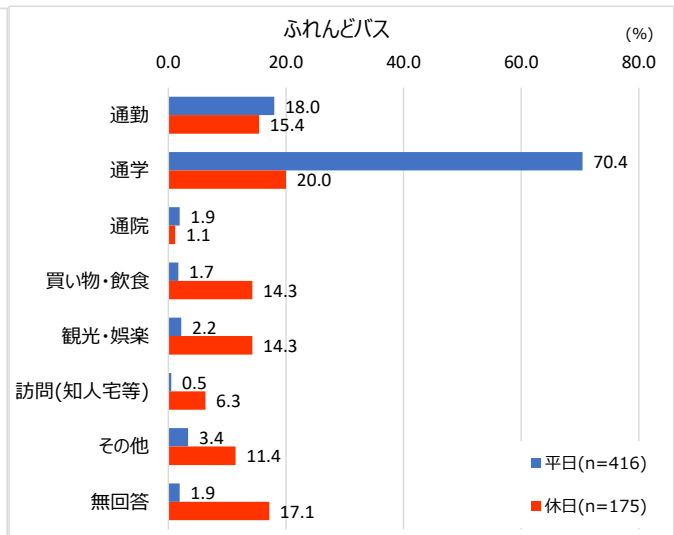
- 安城市や刈谷市といった碧海5市及び西尾市を含めた近隣市との結びつきや、名古屋市への移動需要が存在しているため、広域的な公共交通の維持・活性化が必要です。
- 名鉄電車は、刈谷市や名古屋市方面への通勤・通学目的での移動に利用されているとともに、市外への買い物や観光などといった目的での利用がありますが、自宅や目的地から駅までが遠いという意見があります。
- ふれんどバスは、碧南高校をはじめとした沿線3校の高校生が利用の主体を占め、碧南駅と市外の高校や住宅地を結んでおり、利用者の満足度は72.2%と高いことから、継続的な運行が求められます。

図 5-9 名鉄電車を利用して外出する目的



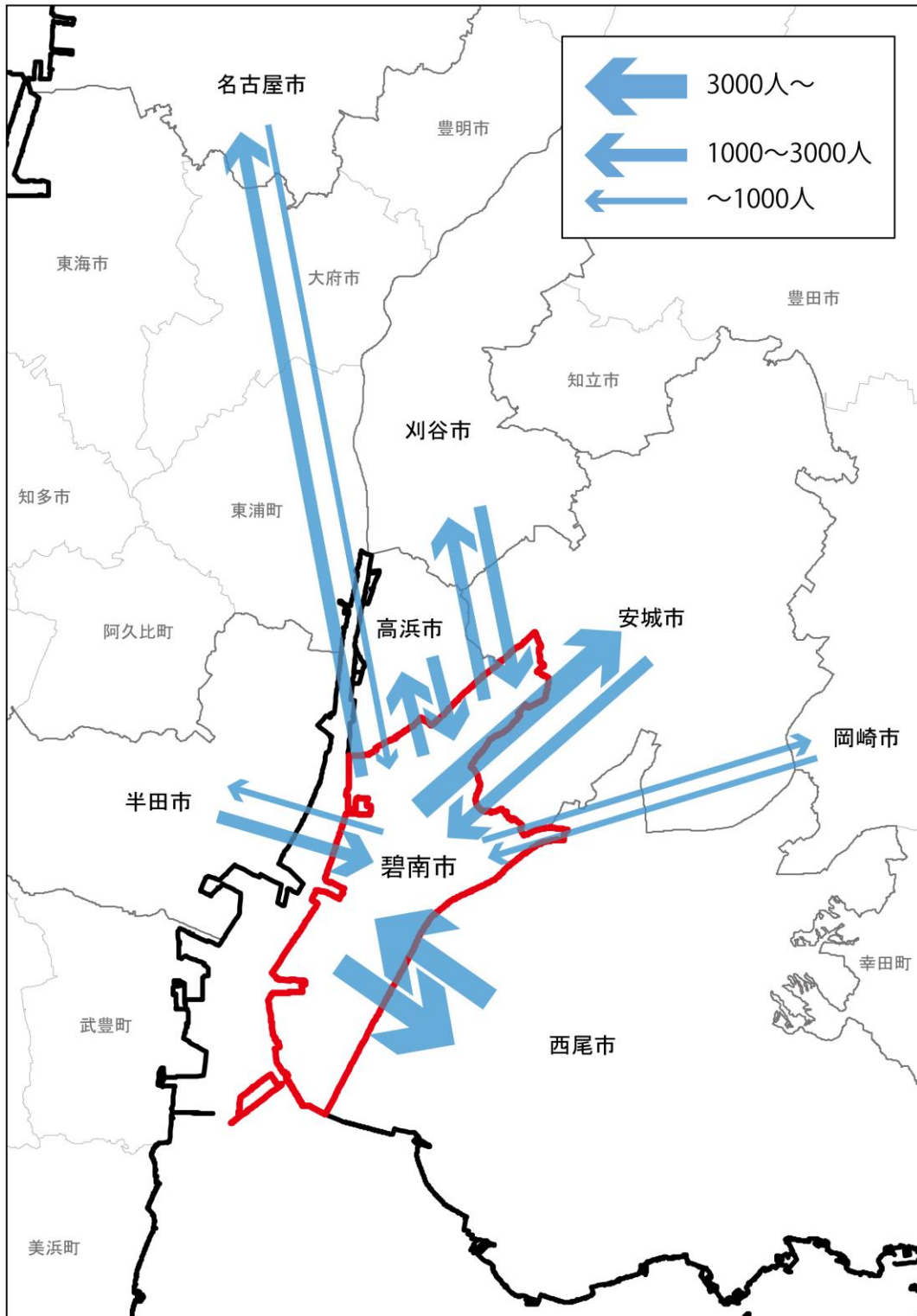
(資料：市民アンケート調査)

図 5-10 ふれんどバスの利用目的（再掲）



(資料：利用者アンケート調査)

図 5-11 碧南市に関連した通勤・通学流動図（再掲）



(資料：2020年国勢調査)